



## EVENT

イベントのお知らせ

### 「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」 開設記念トークイベント

日時：12/20(日) 13:00～15:00

場所：まちライブラリー@My Book Station 茅野駅+Zoom

長野県茅野市ちの3502-1ベルビア2Fワークラボハヶ岳内

「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」開設を記念して磯井純充(まちライブラリー提唱者)×土肥潤也氏(みんなの図書館「さんかく」館長)×藤原隆充(藤原印刷 専務取締役)がこれからの本のある場所について語り合います。

詳細はWEB:【仮サイト】[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/mybookstation](https://peraichi.com/landing_pages/view/mybookstation)

### New! まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。

開館日時など詳細は、まちライブラリーHP「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。(No.は登録番号です)

NO. 794 (岡山 美作)

#### シービスケットライブラリー

本を通じた幸せな出会いをあなたにも。「穏やかなつながりの場所」でありたいと願うマイクロライブラリー。蔵書は趣旨に賛同していただいた方からの寄贈を中心として拡大中です。

• Instagram:

[https://www.instagram.com/s\\_e\\_a\\_biscuit](https://www.instagram.com/s_e_a_biscuit)

• オーナー：シービスケットライブラリー

NO. 795 (大阪 池田)

#### まちライブラリー@伏尾台はぐのさと

池田市の旧伏尾台小学校の中に新しいまちの拠点ができました。地域や有志であつめた誰かに着てもらいたいおしゃれな古着屋「Re:LifeStore Fushiodai」の中に、併設されたまちライブラリーです。

• Facebook:

<https://www.facebook.com/relifystore.fushiodai/>

• オーナー：Re:LifeStore Fushiodai

NO. 796 (京都 京都市南区)

#### まちライブラリー@規文堂

図書館の内装などを手掛ける規文堂の庭先のまちライブラリーです。金属製の本の巣箱と、軽く座れる場所を用意しました。図書館やものづくりにまつわる本を提供できたら良いと思っています。よろしくお祈りします。

• Web: <https://www.kibundo.co.jp/>

• オーナー：株式会社 規文堂

NO. 797 (京都 京都市南区)

#### まちライブラリー@ハピネスカフェ

住宅街の中にある、隠れ家カフェのまちライブラリーです。朝の出勤前にホットお茶をしながら本を読んだり、カフェを貸し切って趣味のイベント開催に使ってもらうことも可能です。のんびりした時間が流れる、地元根ざしたお店です。お気軽にお越しください!

• Web: <https://happiness-cafe.shopinfo.jp>

• オーナー：NPO法人happiness

NO. 798 (岩手 花巻)

#### 向小路まちライブラリー

民家を改修したまちライブラリーで、中心市街地から歩ける場所にありながら、窓からバードウォッチングもできます。蔵書は、地元花巻の資料、宮沢賢治関連、岩手県関連資料、歴史関連本、ビジネス本がメイン。賢治本は、全集があり、揃っています。

• Facebook: 合同会社桜町家守舎

• オーナー：合同会社桜町家守舎

NO. 799 (東京 三鷹)

#### まちライブラリー@すずめの本棚

しゃぶ葉三鷹駅南口店の階段脇「スズメベース」内にある、隠れ家的なコワーキングスペース。狭いけれど、ちょっとこもれる場所です。

• Facebook:

<https://www.facebook.com/suzumeden>

• オーナー：小林圭子

NO. 800 (長野 茅野)

#### まちライブラリー@蓼科山荘

蓼科の山の中腹にあるまちライブラリー。本を読んで、静かに思索するもよし、時には、本にまつわるゲストを招いて情報発信もします。ご訪問希望の方は、磯井までご連絡ください。

• オーナー：一般社団法人まちライブラリー

NO. 801 (和歌山 みなべ町)

#### まちライブラリー@plumingo (プラミンゴ)

和歌山県の梅の産地みなべ町に新しくできたオープンスペース内にあるまちライブラリー。

店主が集めたデザインや地域関係の本を並べた空間です。人との出会いから「何か」が生まれる場所にしたいと思います。一人店主なので仲間も募集中。お立ち寄りの際はご一報ください!

• Web:

<https://www.mypressroom.net/about/openspace-plumingo/>

• オーナー：高田昭代

NO. 802 (秋田 八郎潟)

#### まちライブラリーはちらぼ

商店街の一角にある食品小売店を併設した町民コミュニティ拠点の2階にあります。

• Facebook:

<https://www.facebook.com/hachilab2017/>

• オーナー：特定非営利活動法人Hachi LAB



NO. 803 (静岡 静岡)

#### まちライブラリー@すえのぶくろーバー歯科医院

歯科医院の2階にある、食と健康・子育てなどに関するコミュニティの場です。来院される方々の推薦図書があり、どなたでもカフェ感覚でご自由にご利用いただけます。

• Web: <https://www.suenobu-smile.com>

• Facebook: すえのぶくろーバー 歯科医院

• オーナー：末延慎司

NO. 804 (石川 加賀)

#### まちライブラリー@pear

移住者と地域にお住まいのかたの交流を目的としたライブラリーです。 ※本の貸出は地域の方のみです。

• オーナー：杉森吾郎



## 二つのブックツーリズム

### ～ブックフェスタ・ジャパン 2020 を終えて～

9 月から1ヶ月にわたり開催してきたブックフェスタ・ジャパン2020が無事終了しました。オンラインの活用にもチャレンジした今回のブックフェスタは、まちライブラリーのあり方やイベントについてあらためて考える示唆に富んだ経験となりました。

まちライブラリーは人と人が身近に接して、顔を合わせて話をしたり聞いたりする中で交流することが大事だと思ってきましたし、実際これからはそうあるべきだと思っています。しかしながら、ウィルス対策が必須となった今、イベントを中止や単なる延期にするよりは、オンラインでつなぐ方法を試してみようということで開催に踏み切ったのでした。オンラインでのイベントに慣れているとは言えませんが、その利点を活かし、北海道から九州までいろいろな地点の人たちに呼びかけてみようということで行ったのが、ブックフェスタ・ジャパン2020でした。

結果としてよかった点を三つあげるならば、まず一目は、消化しきれないくらいたくさんのインプットがでたということです。例年春に関西圏で行ってきたブックフェスタin KANSAI以上に、多くの場面を見ることができ、それは未だ消化しきれないほどです。

二つ目は、大阪府茨木市のイベントに行ったその日のうちに、すぐに秋田県八郎潟に移った

り、長野県蓼科でのイベントのあと静岡県焼津市に飛んだりすることが可能になり、想像していた以上にたくさんのエリアの人とつながることができました。物理的な移動では不可能なことがいとも簡単にできるのだと実感しました。

三つ目としては、同時進行的に各地の人と接したので、共通する思いとやり方の多様性をフラットに見ることができました。今までは物理的に行かれるところ、行きたいところに行き、一つひとつの事象を積み上げていくようにして各地の皆さんの活動に触れてきましたが、今回はある種の連続性をもってそれぞれのまちライブラリーを同時的に見ることができたように思います。そうした中で、まったく違う価値観でまちライブラリーをやっている人たちとも出会えました。オンラインを併用して開催したことで、その手法の利便性や可能性を感じつつ、新たなまちライブラリーの姿や可能性も発見できたのは、コロナ禍ならではの大きな収穫だったといえるかもしれません。ブックフェスタ・ジャパン2020に参加してくださった全国の皆さん、本当にありがとうございました。

一方で小さな地域でのリアルな活動の尊さも同時に経験しました。私はブックフェスタ・ジャパン開催期間中に、滋賀県長浜市木之本町へリアルに足を運び訪ねました。このまちで起きて

いる本を巡る活動に興味があったのです。行ってみると、このまちでの取り組みには本を使った交流の原点がありました。

木之本町には、地域の人が力を合わせて設立、運営してきた江北図書館があります。明治39年、この地域出身の弁護士・杉野文彌氏の志と蔵書をもとに創られた地域のための私設図書館です。貴重な地域の歴史書などは滋賀大学に移管、保存されているそうですが、設立から100年余り経った現在も蔵書は開放されており、貸出もしています。

木之本町の隣り町である高月には十一面観音様が地域住民の手で守られています。ここは「観音の里」として知られ、全国から観音巡りの人が訪れます。そのきっかけは井上靖の『星と祭』という小説なのですが、絶版になって久しく、入手困難になっていました。観音巡りのきっかけである『星と祭』を復刊したい。そう考えた木之本町のあいたくて書房の久保寺容子さんと一人出版社、能美舎主宰の堀江昌史さんが有志と共に、クラウドファンディングならぬ勸進運動で寄付を募り、小説を復刊させました。それによって、集落でお守りされている方が地域に誇りと生きがいを見つけたと聞き、生活に根差した本の活動だと感じました。観音様に魅了されて移住してきた観音ガールによる観音巡り

ガイドも一緒に配本され、『星と祭』を補完しています。さらに無形文化遺産である長浜曳山祭りの英語訳付き写真集や市民ライターが地元愛溢れる視点でまちのおすすめスポットを綴った木之本文庫など、自分たちの地域を本にして楽しむことでまちの活性化が展開されています。

木之本町では、その土地ならではのコンテンツ、まちを楽しむ人の熱意、それぞれの特技を提供し合うチームプレーの力があり、それが結果的に交流やまちの活性化につながったのだと思います。皆さんのお話をうかがいながら、私も『星と祭』を読みたくなり、秋風の吹く中、観音様を巡って、そぞろ歩きなどしてみたくなりました。堀江さんの「江北図書館を守ってきたこのまちが好き。江北図書館は日本最古のまちライブラリーだと思います」という言葉には深く感銘を受けました。

今年はオンラインとリアルで本を活かした活動を味わう秋となりました。どちらもブックツーリズムの可能性といえるでしょう。これからも本と人のあり方を訪ねていきたいと思います。

2020年11月

まちライブラリー提唱者 磯井純充  
連絡先 mail: MSJ00657@nifty.com